



次世代へ確かな一歩

小野町議会議長 大和田 昭

新年明けましておめでとございます。
町民の皆様には輝かしい希望に満ちた初春をお健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、長雨による農作物への影響が一部心配されたところがありますが、総じて前年作並みに推移されました。今年は、ミネラル栽培による、ちぢみほうれん草、トマトなどの野菜栽培の生産拡大や畜産市場の価格が安定なされることを願うものであります。

一方、商工業におきましては、日本経済は穏やかながら回復をし、いざなぎ景気を超えたと言われておりますが、地域社会にとっては、まだ実感に至るものではなく、依然、厳しい状況下にあった年でありました。今年こそ真の景気回復を実現できる年となることを念願する次第であります。

昨年の国内外の社会情勢は、混乱する中東アジア情勢や、北朝鮮の拉致問題、新たに問題になった核実験、国内に目を向けますと、全国に被害をもたらした台風及び

竜巻など予測を超える自然災害が発生し、多くの方々が被災されました。被災者の方々の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

このように厳しい情勢の中、わが町におきましては、こまちダムたぐみの湛水式、こまち浄水場起工式、林道風越・殿畑線の開通、更には磐越自動車道郡山・いわき間の七割が四車線として供用されるなど、当町発展の鍵となる重要な施策は順調に推移をいたしております。

また、厳しい経済情勢の中にあつて、誘致企業が個々の企業努力により、生産体制の拡充に取り組みれておりますことは、雇用面も含め地域経済の活性化を一層助長するものであり、都市機能の条件整備と地域経済の再構築は、確実に進展をいたしております。

ご承知のとおり、自治体を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況にあることから、行財政改革を一段と進めて行かなければならなく、自己決定と自己責任の行政運営が一層求められております。

国と地方の枠組みが変わりつつある中、当地域において重要な役

割を担うわが町が未来に向けて着実に歩んでいくためには、時代の変革の波を的確に捉え、行政と町民の皆様方がそれぞれの役割を果たし、協働で自立したまちづくりをさらに進めていかなければなりません。

議会といたしましても、町民の皆様のご意見を町政に反映し、当町の有する貴重な資源及び今日まで整備されてまいりました社会資本を最大限に活かした、将来住みたい町、住んで良かった町、子育て・子育てのしやすい町を目指して、自立可能な行財政運営の構築に先導的役割を担い、町民の皆様の期待に応えられる議会運営を目指してまいります。どうか議会に対しまして、更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますことをご心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。